

# The Y's men's Club of *Kyoto Prince*

THE SERVICE CLUB TO THE YMCA AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB  
SANJOU YANAGINO BANBA KADO NAKAGYOU-KU KYOTO JAPAN, GIP 604-8083 TEL 075-231-4388  
URL <http://www.prince-ys.com>

強調月間  
EMC —M—

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANES EVERY RIGHT"



Bulletin  
2008.12

2008年12月1日号発刊  
第26巻 6号  
通巻276号

会長主題 (CP)

廣井武司

主題

「友情の輪を拓げよう」

スローガン

和・話・輪

WA WA WA

あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。  
どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。  
新約聖書フィリピの信徒への手紙 4章5～6節

国際会長 (IP)

V. S. Bashir (India)

主題

“Be the Light of Hope” 「希望の灯となろう」

スローガン

“Share with a smile” 「分かち合いは微笑をもって」

アジア会長 (AP)

Rita. Hettiarachchi (Sri Lanka)

主題

“Be the Light of Hope” 「希望の灯となろう」

スローガン

“Working Together to Serve Better”

「より良き奉仕のためにともに働こう」

西日本区理事 (RD)

佐藤典子 (熊本ジェーンズ)

主題

「思いやりを持ってワイズライフを！」

“Enjoy Y's life with Consideration!”

—わかち合いは微笑をもって—

—Share with a smile—

京都部部长

藤田寿男 (京都ウイング)

主題

「意識を持って活動に参画しよう！」

—555実現に向けて—

にこにこ



10月第一例会 9,000円  
10月第二例会 10,000円  
累計 43,000円



ファンド  
じゃがいも 320,095円  
すいか 24,200円  
その他 5,128円  
累計 349,423円



BFポイント  
切手 0p  
現金 0p  
累計 0p



11月第一例会 17名  
11月第二例会 15名  
メーキャップ 0名  
在籍者数 20名  
出席率 85.0%

We are family

We are family

We are family

We are family

EMC

—M—



会長 廣井武司

年をとったら出しゃば  
らず  
憎まれ口に泣きごと  
人のかげ口愚痴言わず  
他人の事は褒めなはれ  
聞かれりや教えてあげ  
ても  
知ってることでも 知  
らんぷり  
いつでもアホでいるこ  
っちゃ

朝五時、決まったように目  
が覚める。寒さのせいか、ベッ  
ドからの脱出が少しずつ遅くな  
っている。足の指先と肩が冷た  
くなっている。  
枕もとに置いたテレビのリモ  
コンのスイッチを入れて朝のニ  
ュースを見る。ここしばらく続  
いている習慣である。

今日もまた京ことばで言っ  
、しんどいニュースが流れてく  
る。「お目覚め爽やかニュース  
」はここしばらくご無沙汰であ  
る。偽装、殺人、薬物、轢き逃  
げ、不況、通り魔、災害などほ  
とんど毎日、トップニュースで  
現れてくる。そして、またかと  
そんな世の中に徐々に慣れて来  
る自分自身がそこにいる。

いつからこんな世の中にな  
ったんだろうと考えてみても、  
何も分らない。ただ確実に感  
じることは人の心がすごく希薄  
になってきているということ  
実感できる。自分に関係のない  
ことには目を閉じ耳に栓をして  
知らぬふり。近くの高校生がタ  
バコを吸っていても見て見ぬふ  
り、他人の家の前や道路にゴミ  
を捨てている人を見ても、注意  
するわけでもなく、ただ黙って  
時の過ぎるのを待つ。

確実に自分だけを大切に守  
ろうとする自己中心的な人た  
ちが増えてきている様子はあら  
ゆる場面で見ることができし、  
感じられる。

そんな風潮の中で私たち奉  
仕クラブはこれからどう拡大し  
てゆけばよいのか考えねばなり  
ません。

奉仕クラブの会員の高齢化は  
ワイズのみならず、他の奉仕ク  
ラブにも共通した問題となっ  
ています。早急に解決しなければ  
ならないことです。幸い私たち  
のクラブに若い人たちがもつと  
迎え入れようという気運が生ま  
れてきました。素晴らしいこと  
です。先月を実施した百人例会  
をクラブの「OPEN」の時とし  
て、全会員が協同共同の業とし  
て、新会員増強と意識の高揚を  
はかりましょう。

無関心は真実を見えなくし  
てしまっています。こんな世の中  
はと嘆いていても何も始まりま  
せん。所詮、私たちの一人一人  
の力は知れたものですが、結集  
することで未知のパワーが生ま  
れてきます。

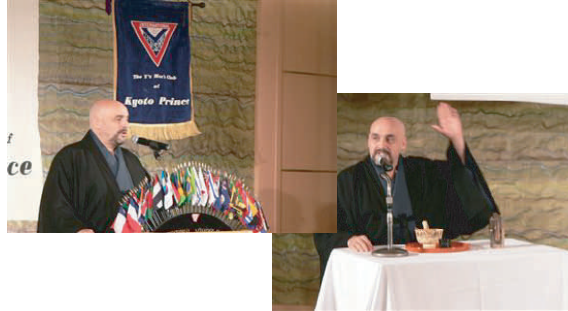
「子供たちの未来のために  
」今、私たちは出来ることから  
Y M C Aとそこに集う人たちと  
ともに働こうではありませんか  
。自信を持ってワイズの運動の  
拡大をめざして!!

上記の文は以前仕事で訪れ  
た病院の壁に書いてありました  
。気になったので手帳に控えて  
きました。皆さんはどう理解  
されますか？

# 百人例会の意義

小野敏明

去る、11月5日、約70名余り参加者を迎え11月第二例会『100人例会』が開催された。参加者内訳は、メンバー（メネット・コメット含む）25名、ゲスト34名、ビジター13名。ゲストには、ランディー・チャネル氏（宗榮）を迎え、いつもより広い会場で、いつもより大勢の人々との例会。



自己紹介もそこそこに、日本の伝統文化についての講義。茶道・花道・武道など『道』と名の付く伝統芸能の話や、さらにその文化の背景にある日本の原風景についての話。曰く、深い日本自然環境が『日本文化』すなわち『日本のこころ』に大きな影響を与えているのでは？などの意見。『なるほど』と、大きく頷く日本人。壇上で講義するカナダ人。ふっと日本の国技『大相撲』の現状が脳裏を横切った。

ゲストの茶道裏千家の茶人、ランディー・チャネル氏はカナダ出身。さらに、二刀流、居合道、弓道、剣道、薙刀などの有段者。パソコンを使ったプレゼンテーションを交えながら、『日本のこころとは』についての講義。

続いては、茶道の実演。ゆっくりとした動作から、ランディー氏が茶道具を取り出す。その仕草は美しく、とても日本人的。会場内にはお茶を立てる音以外の雑音は皆無。呼吸さえためらう程の緊張感。お茶を立て終わり、ランディー氏が一言『楽しんでください』。この一言に救われる。どうしても、『道』と名の付く伝統芸能に対しては根柢のない緊張感が漂う。氏の一言はこの緊張感を一蹴してくれた。

実演の終盤は、ランディー氏所有の茶道具の説明。その茶道具たちは、日本の名工による銘品ではない。アジアのアンティークを自分なりにアレンジして使用されていた。伝統の軸を継承し、かつ庶民的に、また自分なりに楽しんで。そんなランディー氏の一面がこの茶道具たちに表現されている。

最後質疑応答。多岐に渡る質問を言葉巧みにかわし、最後にはユーモアを忘れない。そう、このユーモアこそ日本人が一番不得意とするところ。

日本人の『道』+アングロサクソンの『ユーモア』、『規律』+『自由』。ランディー氏のような方がひよっとして日本の『道』を変えるかもしれない。また、現代の日本人にはそのような変化を受け入れる土壌は整っていると思う。今後の、日本の伝統芸能が面白くなってきた。

ゲストスピーチの後は、YMC A及びプリンスクラブの活動報告。動画を用いたプレゼンテーション。

第三者の目線に立つて作成された活動記録など、ゲストには大変解りやすかったと思う。過去の実績、現在の活動内容、最後に未来。少しでも多くのゲストに共感して頂き、今後の活動に力を貸して頂ければ幸いです。

今期、西村EMC委員長の肝入りで計画された例会。題目の『100人例会』まではあと20数名足りなかったが、そんな事も忘れさせるような例会。正直、そんな事はどうでもいい事なのかもしれない。今回は計画段階から参加。そのプロセスは大変有意義なものであり、次回への大きな経験となりました。

関係者の皆様、大変お疲れ様でした。さて、次回はどんな例会を計画しましょうか？



西堀和之



なんやったかなあ？

昨日までの陽気と打って変わり寒い一日となった。例会場のある宝ヶ池の林も漸く彩られ始めホテルの庭もライトアップで幽玄の世界を見せている。例会の出席者はゲスト2名を含め17名。第一例会の出席者70余名と比べようもないがドライバー委員会の陰で第一例会に勝るとも劣らない和気藹々とした雰囲気

委員会の報告はEMC委員長からは会員数を30名にと檄が飛び、地域奉仕委員長からは「ロールバック・マラリア」についての説明と募金袋の配布、ファンド委員長はクラブのファンド・レイジングのためにみかんの予約販売。一方テーブルではチャリン、チャリンと小さな音をたてながらユース活動を支援するワンコインの募金箱が回る。会員の善意が有効に使用されることを祈る。

今日は食事にビールが供されることになりドリンクチケットが宙を舞うが、車で例会場に来た人は残念ながらビールに似たノンアルコール飲料で喉を潤し酔ったつもりで久しぶりの中華料理と会話を楽しむ。食後は特別企画のクイズ大会。クイズはワイズメンとしての常識から政治経済芸能などが広く、私には問題が難しくすぎて回答を保留にしていたところ、これが功を奏して個人戦では勝者の一人となる。賞品はクリスマス例会時のドアプライズのカード2枚。問題を考えてくれた人にお礼を言うべきか。楽しい一時を皆と共有し例会は定刻にお開きとなる。本日のニコニコ10,000円とロールバック・マラリアの献金額は14,000円。感謝。

う〜ん 難しい



自信を持って



廣井杯ゴルフコンペ

森伸二郎



ファンド事業としての廣井杯ゴルフコンペが、11月9日(日)れいせんゴルフ倶楽部で、行われました。誠に残念な事で、廣井杯と名を付けられるのか？という声もあったのですが、プリンスクラブからは、廣井会長、岡西ファンド委員長と私の3人だけ。京都部部長をはじめ残りの9人は、プリンス以外の友情参加でした。

11月上旬にしては寒い一日。しぐれこそ無かったもののどんよりとした冬の様な天候で、午後4時を回ると薄暗くなってきた、日が暮れるのとの競争でした。私は1組目だったのでまだましな方だったのですが、それでも最終のロングホールでは、ティーショットでのボールの行方は見えませんでした。ここれいせんゴルフ倶楽部は、山の斜面にレイアウトされたコースで、コース中は狭い感じがし、ティーショットは距離よりも正確が必要とされるコース。初心者にとっては難コース。結局スコアでは、私が120をたたき最多、廣井会長が1打少なかったのですが、ハンディキャップを多くもらえた私がブービーをいただきました。優勝は、今回友情参加してくれた元プリンスの早崎君、この難コースでグロス5オーバーは「立派」の一言。ホームグラウンドでありながらも「今回は気を使った」と言い訳をしている岡西委員長は、グロス86で7位でした。ちなみに藤田京都部部長は、グロス110の8位でした。そして肝心のファンドは、馬が全員外れ、委員長のご配慮で全額返金となり、辞退された賞金の8千円でした。今回プリンスからの参加者3名だけという結果が、今後の廣井杯開催に大きな影を落とさないといいたのですが・・・。

# 「完成に近づいた京都キャピタルクラブ」

—二人目の西日本区理事を輩出できるクラブとは—

渡邊公生



11月1日、世界で初めて（当時は日本区）となる双子クラブの誕生として25年前、めいぶるクラブと同時チャーターをした、双子のうちの一人、キャピタルクラブの25周年例会は、約170名の出席を数えた。当時の数年間は京都パレスクラブが怒涛の勢いを持って子クラブを次々にチャーターして行った。それぞれにクラブカラーは大きく異なっていました。私たちプリンスクラブもキャピタルができた3年後にパレスから生まれました。

25年が過ぎ、ワイズメンズクラブらしいといえは語弊があるかもしれないが、堀初代会長の指揮のもとに確実に、ワイズメンズクラブとしての意義を身につけられたクラブと感じました。だからこそ、たった10年の間に二人目の西日本区理事（一人目は当時日本区であった岡本尚男（ワイズ）を輩出できるクラブとして形が整ってきたということですが、20年は成人式と言いますが、キャピタルこそ、京都の中で確かに成人されたクラブとして25周年を見させていた感じがした次第です。仁科さんが西日本区理事として決定されればキャピタルクラブは熟成期に入っていくことでしょう。

2010年は横浜で国際大会が開かれます。京都で国際大会が開催されて20年、キャピタルクラブは確実に成長され、堀初代会長の思いが脈々と受け継がれていると感じました。

良き社会人の集団としてキャピタルクラブのますますの発展を願い、仁科さんが理事に就任され最後まで健康でお働きしていただけることを願うとともに、我々プリンスクラブが目標として選んだクラブ、それは間違っていないかと自負する次第です。

## めいぶるクラブ 25周年記念例会に出席して

岡西博司

11月23日、京都中のみじが真つ赤に紅葉しています。日本中いや世界中から、この京都へもみじ（メープル）狩りに人であふれかえっています。地下鉄も自動車もバスも人人人・・・

僕たちの仲間であるメープルワイズメンズクラブが、双子クラブとして世界で始めて誕生してから25年。この四半世紀を生き抜いてこれたことは、本当に素晴らしいことである。百数十名ものワイズメンが、各地からこの場にお祝いに駆けつけて来たのだ。

今日のメインの一つにDBCの締結式が、この場を借りて行われるとの事。熊本ひがしクラブのメンバーが多数顔を見せている。又台湾・韓国とのIBCのメンバーも大勢で駆けつけて来ているではないか。

西日本区理事の媒酌の下、厳かにDBC締結式が執り行われた。僕の友人でもある加藤君（熊本ひがしのメンバー）が、嬉しそうな顔している。久しぶりの再会に、酒を片手に話に花が咲きました。



あちらでも、こちらでも、みんなとっても楽しそうな雰囲気です。本当に楽しい一時をありがとうございました。

僕たちのクラブもあと少しで25年を迎える。このメープルクラブに負けないくらいの立派な、楽しい周年事業が出来るのだろうか？ちょっと心配でもある。

YMCAに25周年記念として100万円の寄付。又彼らのサポートしている団体に各々20万円づつ寄付。素晴らしい。さすがメープルクラブ。

僕たちプリンスクラブの、今なすべきことは何なんだろう？再度考えさせられる。

今一度、真剣に僕たちの活動の目的を再確認するべき時が来ているのではないだろうか。頑張れプリンス！

秘策はあるのか（密談？）

# リトセンオータムフェスタ



岡西博司

今日は朝から雨。昨夜からの雨で、ちよつとイヤな感じ。今日は廣井会長のアッシー君です。10時に会長宅へお迎えに。10時半過ぎにリトセンに到着。昔と違って早くなったもんだ。リトセンの駐車場には、この雨の中にもかかわらず車でいっぱい。まるで、田んぼの中のような駐車場。まいった！リトセンの野外ステージの前にテントを張り巡らし、雨対策。人、人、人。大勢のワイズメン達、又その家族の人達。コメント、メネット達。みんな各ブースの料理の段取り。忙しそうである。今日は僕たちはお客様。あちこちのブースに顔を出さず。握手、握手。握手のオンパレードである。豚マン、たこ焼き、ポックリ、和菓子、スープ、チーズフォンデュ、焼き鳥、焼きうどん、うどん、焼き芋、コーヒ、みたらし団子、・・・

何を食べても、全部只。入場券の2000円のみ。勿論ビールも何処かにあったようです。

実行委員長の挨拶の頃には、雨も上がり、みんな食べ物を片手にいろんな話で盛り上がっています。僕たちプリンスのメンバー（森君・森メネット・廣井会長と僕）四人だけでしたが、キャピタルの岡本さんを交え、ワイズ談義に盛り上がっていました。

恒例の綱引き大会は、地面がぬかるんでいる為中止。その代わりウエルクラブとみやびクラブの料理対決が行われました。10名ほどの審査員が選ばれ、両クラブの料理の食べ比べを行われました。

本当に楽しい一時を持つことが出来、感謝です。さすがにフェスタだけあって、お祭り騒ぎ。こんな催し、年に二三度あっても良いな、と感じました。

さすがに、ここへたびたび来る人達は、みんなゴム長靴を履いておられました。「ゴム長はここでは必需品や！」みんなに言われ、全く同感です。

今度は、サバエでみんなに、なんか言い返さな。次回は、プリンスのメンバー大勢で遊びに来たいものです。その時を楽しみにしています。

## 子供たちの健康を考えて

渡邊公生

リトセンオータムフェスタ、専門学校学園祭、チャリティーランetc、YMCA関連の行事は数々あります。それらを私たちはサポートしています。その中で提供される食べ物の数々、定番の焼きそば、たこ焼き、ホットドッグ、うどんetc皆さんも自クラブが提供するものを定番として提供されていることでしょうか。その中には多くのワイズメンのコメントやマゴメット、参加する子供たちや中には妊娠中のお母さんもおられるかも知れません。多くの子供たちが口にしている食べ物の内容を気にかけておられるますか？

PCBは毒性が強く脂質に蓄積し、発がん性があり、皮膚障害や内臓障害、ホルモン異常を引き起こすことが知られています。

このようなものがなぜ血液中から発見されるのか？

PCBは絶縁性が高い。耐薬品性に優れている。などの特性から、可塑性や塗料絶縁油、変圧器、コンデンサなどに使用されてきました。

今回YMCA専門学校の学園祭でプリンスが提供したベーコンバーガーはパンをオーガニックにしました。計画が急だったために、パンのみを無農薬のものにしましたが、本来ならばベーコンや他の野菜などもそうすべきところで、次年度はそういったことも考えていくべきことと思えます。子供たちの心身の健康を目指すYMCA、それをサポートするワイズメンズクラブが提供するものが子供たちの健康を害してはそのコンセンプトに反していることとなります。たとえば私たちの血液にはPCB（ポリ塩化ビフェニール）が多かれ少なかれ含まれていることが千葉大学の森教授の研究班で明らかになっています。

1972年に生産、使用の中止で1974年に製造、輸入が原則禁止された。しかし、それ以前に作られたものへの対策は講じられてはいなかったために、2000年ごろから、蛍光灯の安定器などからPCBが多く発生した。これらの処理方法が適切で無かったために土壌汚染や地下水汚染が起こりその結果として、河川の汚染、海洋汚染などに繋がりが食物連鎖の結果、私たちの体に入ってくるのです。体内でそれらは脂質に蓄積します。妊娠中の母親から胎児へその緒を通してPCBが蓄積されていきます。

ほぼ100%胎児のへその緒からはPCBやダイオキシンが検出されています。また出産後授乳によっても乳児に蓄積されることもわかっています。食べ物については食の問題が叫ばれている昨今であります。またそのほかにも私たちは有害な化学物質に囲まれた暮らしをしています。有害な化学物質の摂取によってこれらはすぐに症状として現れて来るものとそうでないものがあり、すぐに現れるアレルギーのようなものであれば、食べることも避けられますが、長期の摂取により蓄積した結果現れるものについては、誰もがその危険度については感知しにくいものであります。

子供たちの将来的な健康を守るためには、私たちが有害なもの避け、健康に悪影響の少ないものを子供達に提供すること、それも大きな環境問題への取り組みであり、ワイズとしてしなければならぬことの一つでしょう。

ウルグアイ・サンパウロのYMCAはいずれも活動規模・施設の規模は日本とは比べようも無い大きさである。主たる活動はウエルネス。屋内屋外プール・体育館、郊外のグラウンドではサッカー場が完備しておりあたかも日本の民間フィットネスクラブの様相を呈し多数の会員が利用していたのには70年代初頭までの大阪や京都のYを思い出させた。フィットネスの機器は最新のものを備え、あるいは機器メーカーからの無償提供を受けて会員の増強を図っていたが最近では会員の減少が見られると担当主事は嘆いていた。

当然のことながら屋内の教室では小中学生対象の情操教育を高めるためのカリキュラムも組まれ、全員が誇らしげにYMCAの文字を刷り込んだTシャツやトレーナーを着用。一方、経済格差から貧困地域に立地するブランチではCDC(Community Development Center)の利用を最大限に計り貧困家庭の子弟を集め無償で給食の提供、幼児向けには託児所を設け、小中学生には有料で提供している情操教育やスポーツを、職業訓練としての家具作り、スクリーンなせん(染め)、を教え、社会復帰を目指す人向けには、パソコン入門、国語、ネールアート、裁縫、美容技術などを無償で提供し地域に密着した事業を展開。ワイズメンは主としてCDCの活動に財政的、物的支援をしているようであった。



YMCAの運営は日本と同様であるが、経営面ではその道の専門家が会員獲得、基金集め、各カリキュラムには専門知識を持つYの職員が担当し、京都Yのようなボランティアリーダーはいない。そのためYも営利企業と同様の働きをしている。従って、全ての事業はYMCAの方針に沿う形となり骨格を成す事業は収益事業で獲た収益をCDCにおける貧困層への地域奉仕に使用。貧困層の生活上に寄与する教育には行政と積極的な取り組みが行われる。一方ワイズメンズクラブのみならずロータリークラブを初めとする奉仕クラブや民間企業からの積極的な支援を受け、ワイズ依存型の日本のYの活動とは大きな違いが見受けられた。これは制度上の違いやYの発展過程における考え方の違いがあると同時にYの事業規模に対してワイズメンの数が少ないこともあり是非を問うことは出来ないがYが自主独立の路線を歩みワイズメンズクラブとは相互に自主性を尊重しながら緊密な関係を保っていることを意味している。

京都Yの場合は収支報告も正会員のみ配布しているが、活発な事業展開をするYの発行するプロファイルには明かに収支も記載され透明性が大きいのは驚きを禁じえない。アメリカ合衆国ではYの財政健全化によりワイズメンの支援を必要としたくなったためワイズメンズ活動が衰退したと聞いたことがあるが、本がどうか定かでない。しかしYの事業規模の拡大にワイズメンズクラブが付いてゆけなくなったことは紛れもない事実と、ブラジルからの帰途立ち寄ったニューヨークのあるブランチを訪れて感じた次第。

ブラジル・ウルグアイを訪ねるまで、キリスト教徒が多い両国でなぜワイズメンズクラブの数が少ないのか疑問を持っていたが知りえたことはラテンアメリカではキリスト教といってもローマカトリックが中心で、キリスト教布教のためにYMCAの役割を全てではないにしても教会が担ってきたという歴史的事実があるのと、ヨーロッパ社会で十字軍遠征の頃にできたといわれる秘密結社例えばフリーメイソンが白日の下に地域奉仕を実践しているため同じキリスト教とはいえその様式が異なるためアングロアメリカ的思想を持つYMCAの活動があえて必要とされなかったからではないかと考えられる。

話は変るがサンパウロ市郊外にある真言宗の寺に詣でたとき、住職が言うには移民した日系人が浄財を持ち寄り寺を創建。40年余が経つと最近では日系人とブラジル人の結婚で、寺に詣でる人も5割近くがブラジル人になりつつあると言っていた。信仰の場である寺の存在とYMCAのそれは異なるが新しい世界での存在が認知され受け入れられるには時の経過が必要であることでは同じである。

日本のYの集会では先ず牧師による聖書朗読と奨励、賛美歌斉唱と新教のキリスト教様式で礼拝が執り行われる。プログラムの進行するが、サンパウロのYや区大会で見た国旗、州旗、市旗やYの旗に「拍手の礼」を持ってプログラムが進行することは長年の葛藤の結果、新旧キリスト教が融和した証と理解できる。

ワイズメンズクラブの数が多く、ところ増加しているエリアを見ても新旧キリスト教の布教が比較的少ないエリアであるという事実から前述の観察はあながち誤っていないと思う。今後ますますIT革命が進み世界の距離がインターネット上で短くなると、グローバルゼーションの広まりでラテンアメリカ地区のYもワイズメンズクラブも可及的にその数を増やすのではないかと思考する。

## BF雑感

地球の裏側の国を訪れることは一生ないであろうと思っていたが、BF代表となり幸いにも南米の二カ国二都市を訪問する機会を与えられたことはワイズ冥利に過ぎるといっても過言ではない。ただ、現役で事業に携わるワイズメンにとっては長期の休みが取れない事があるのと言葉の問題でBF代表に応募される人の数が少ないのは残念である。

また、現在の応募手続きを見てもらって応募前に記載されているように応募までは会員数の増加からやむをえないことではあるが、かなり複雑な手続きを必要とする。が申請書は応募者本人がRD、A、BF ECCに直送することにならなければならないので記載事項と実際の申請手続きに齟齬がある。また一旦BF代表に決まると国際ルールのためか全ての通信はBF代表本人とITC・訪問地域のATC、RTC間で行われるためBF代表が区部クラブの事業担当者、区事務所に進捗状況の報告をしないうり限りなく蚊帳の外となる。

各年次のFund主任がBF代表の応募を促すことを謳われているが掛け声倒れにならているのは誠に残念であり規定の見直しをして事態に即した表現を記すべきである。

BF代表で海外に旅ができるという機会は申請手続きや長期に職場を離れられないという問題があるとしても、ワイズメンに等しく与えられた権利であるので、事情が許す限りその権利の履行を是非して欲しいと今回ラテンアメリカ地区を旅してせつに思う。サンパウロでも英語のできないメンバーが英語圏にBF代表として派遣されていた。

申請書には語学能力に関する段階を自主申告する項があるのと、公用語の英語のほかフランス語、ドイツ語やスペイン語などの知識があれば必ずしも公用語に拘る必要がないので、後はワイズメンとしての資質と強い見識があれば少なからず相手は人間。意志の疎通は可能である。ブラジルで成功した日本人が必ずしもポルトガル語を学んで移民したわけではないことを考えると言葉の障害は大きな問題ではないと思うので積極的に募集が開始されたらBF代表に応募されてはいいかがでしょうか。

今期末に派遣されることに決まったサンパウロのメンバーと話をした際、英語ができないので目下特訓中と聞いて、旅で知りえたメンバーと文通をしながら交流を図ろうと決心し帰国後直ちにスペイン語ポルトガル語の入門書を購入したが雑用に使われいまだ1ページも練れていないのが悔やまれる。

最後になりましたが、私がBF代表としてラテンアメリカ地区に旅するにこそ支えたいいただいた方々やお世話いただいたモニタービデオやブラジルのワイズメン・メネットにこの場を借りて感謝申し上げます。



京都YMCA総主事 神崎清一

## 初めてのキャンプ 初めてのリーダーとの出会い

小学校4年生の夏「初めてのキャンプ」。大阪YMCAの六甲（現在の六甲山YMCA）の三泊四日（確か）のキャンプに参加しました。皮細工のクラフト、馬蹄投げ（馬の蹄を使った輪投げ）、水泳、キャンプファイヤー、宝探しといったプログラムが楽しくて45年たった今も覚えています。同じテントのメンバーとの時間がもちろん楽しいものであったのですが、その時のリーダー（カウンセラー）がとても素晴らしく思えたのが何よりの思い出です。

多くのリーダーが子供たち（私たち）にたくさんのプログラムを企画・準備し、楽しいゲームや歌を教えてください、仲間と愉快地に過ごせる時間を作ってくれました。

初めて、そして一人で参加した私を4日間見守ってくれました。中でも印象的なことは、大型のテントに二段ベッドを入れただけの暑い宿舎でしたが、夜中に「ふと」目がさめると、大きな団扇でこどもたちのベッドを煽いでよく眠れるようにしてくれていたリーダーの姿を見てしまい、優しさを感ずるとともに、「大学生になったらリーダーになろう」と夢をもった瞬間でした。

## 私のリーダー活動

大学では「野外活動」「レクリエーション」専攻し、YMCAではなかったのですがリーダー活動をはじめました。4年間は青少年のための研修宿泊施設にボランティアスタッフとして関わらしていたり、多くの学生との仲間と、キャンプファイヤー、つどいをはじめとして企画し指導させていただけました。大学にはこの施設から通学していたとしても良い時期がありました。

同じ世代の仲間が時間を忘れて真剣にディスカッションし、利用者、対象者に正面から真摯に向かい合い、彼・彼女たちのもつ課題を受けとめ共に考え悩み、あるときは自分たちの無力さに打ちひしがれながらも、職員の方々と議論しながら活動をしていました。何時間もキャンプソングを歌いつづけたり、他愛もない話や仲間と人生を語り明かす（？）ことも、大事なことでありました。

私にとってそれらすべてが大変な時間であり、豊かにされた時期でありました。

## YMCAって

YMCAに入職をさせていただいた私ですが、そもその動機は、人と人が交わり変えられる体験や感動を伝えたいということでした。学校現場でなく小さなこども達から青少年そして人生の大先輩の方々とお付き合いが出来る場として、最高ではないかというものでした。

特にボランティアリーダーと共に過ごす時間、「機会」や「場」を提供し、彼あるいは彼女たちが自らの意思で、主体的に子どもたち自身もつ課題にぶつかり、社会のもつ課題に向き合うことのチャンスを作り出すお手伝いができるということですが、私の強い思いでありました。そしてその彼らと、上手くいけば長い人生の多くの時間を共にすることができ、傍で実感することができ、これがYMCAの魅力ではないでしょうか。



新年号に続く



大阪ワイズメンズクラブが誕生して80年、その誕生会（80周年）が11月8日、華やかに催されました。23クラブの子クラブを作り、それらがまた子クラブを作り、順に日本全国にその輪が広がり、今では全国に3000名を有するメンバーを数えるワイズメンズクラブ。その大本、大本山の大阪クラブの設立は昭和のはじめ当然私たちは存在していません。全国に多くのクラブがありますが先輩方の活動があればこそ、誕生しそれぞれの仲間つくりができています。まさに私たちはそのファミリーとして存在しています。

## 「日本のワイズメンズクラブの起源」 —ワイズの本山を訪ねて—

渡邊 公生

80歳を超えるメンバー、「渡邊さんはおいくつですか？」と大先輩から声をかけられ、「54歳です。」という「若いねえ」とまるで子供か孫のような存在、また私が生まれる前から国際大会に出席しているといわれる先輩、しかし、顔の血色は私たちよりも良い。そんな大先輩のクラブ、ワイズ起源の大阪クラブがゲストスピーカーとして招かれたのは、レイチェルカーソン日本協会の理事長。レイチェルカーソンは言う間でもなく「沈黙の春」を世に出した人、有害化学物質の影響で、小鳥の鳴き声、虫の声など生き物が死に絶え自然界から声が聞こえない時代が来るとの警鐘を鳴らした人です。

今回の内容をなぜ考えられたのかを大阪クラブの協本会長にインタビューしました。「神さんから平等に命を与えられている、人間は万物の霊長と言いますが、人間が勝手に何でもして他の動物からすればエゴですわ。これは文明が進歩するといいますが、レイチェルカーソンからすればそういうものは（化学物質の多用は）ひよっつとして文明の衰退ではないかと思、これを80周年で皆さんに聞いてもらおうと考えたと思います。」

これまで、ワイズでは環境の「かの字」も口にしませんでした。しかし大阪クラブの今回の記念例会の内容は新しいワイズの方向性を打ち出したように思えます。私たちが子供たちのためにしなければならぬことは山ほどあります。それぞれのクラブが子供たちに渡すべき未来について真剣に話し合うことを大阪クラブは投げかけたのです。

最後に、佐藤西日本区理事にもインタビューしました。大阪クラブの80周年について「大阪クラブ80周年にお祝いを申し上げるとともに、本当に歴史の重みを感じました、感謝です。」



## 国際協力募金街頭

北野 功治



街頭での募金に先立ち12時からYMC A三条本館にて「知ってるつもりで知らなかったYMC Aの国際協力」と題して国際理解セミナーが行なわれました。講師は、藤尾実主事と遠藤浩国際協力専門委員で、神戸YMC Aのタイワークキャンプの具体例を通して、国際協力募金の意義目的の理解に役立つお話を聞きました。その後は分散して街頭募金へ出発です。

プリンスクラブは昨年同様、七五三の家族連れでにぎわう平安神宮へ。昨年はワイズメンバーのみでしたが、今年は子どもたちやリーダーとも一緒に街頭募金となりました。街頭募金のピラも私が配ろうとしてもよけられたりしますが、リーダーが配ってくれるとどんどんはけて行きます。

15時頃に終了して、三条本館へ帰り募金金額の確認をして解散でした。金額は総額で42万円余、平安神宮分は1万4千円程度でした。

お忙しい中ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。



北野 功治

## 専門学校学園祭



今年専門学校が三条に移転して初めての学園祭、認知度を高めるためにもできるだけ賑やかにしたので模擬店を出して欲しいとの加藤連絡主事（専門学校副校長）の要請を受け、出店することになりました。品目は当初6月のチャリティーランで好評だったホットドックとしたのですが、他団体でフランクフルトが出るのでソーセージの重複を避けて、ベーコンバーガーになりました。不慣れた委員長で段取りが危ぶまれましたが、準備段階の材料の選定調達や当日の調理販売に、委員会メンバーはじめ皆様の積極的なご協力のおかげ様を持ちまして、好評のうちに完売しました。

一人ではできない活動が多めのメンバーのご協力を得て作られていく過程を体験できうれしかったです。心より御礼申し上げます。売り上げ1万3850円は全額YMC Aへ寄付しました。学園祭としては他に、アジアミニコンサートや展示・体験コーナーも行なわれ賑わったようです。

# 京都YMCAからのお知らせ

## 1. クリスマス献金受付中

厚生労働大臣より京都YMCA「こおろぎ」の活動に対し感謝状をいただきました。32年にわたり視覚障害者のためのテープ雑誌を作成配布してきました「こおろぎ」に対していただいたものです。この活動は皆様のクリスマス献金の助成によって続けられています。

クリスマス献金への、ご協力よろしくお願ひ致します。

## 2. 会員クリスマス

京都YMCAでは、今年もクリスマスプログラムのを行います。一般の方もご参加できます。

ご家族、お友達では是非ご参加ください。

クリスマスキャンドルサーブ・キャロリング

日時 12月19日(金) 受付開始 午後6時30分

ロビーコンサートとクリスマス礼拝 午後6時45分～8時

クリスマスキャロリング 午後8時～9時解散

場所 三条本館および三条寺町界隈・新京極周辺でキャロリング

ロビーコンサート

日時 12月15日(月)～20日(土)の一週間

YMCAロビーにて 京都大学弦楽四重奏など毎日異なったコンサートが行われます。各日の出演者・時間など詳細はお問い合わせください。

## 3. スキーキャンプ参加者募集中!

会員外の方は各キャンプ費用のほかにシーズン会費2,000円(ファミリーは4000円)が必要です。

A. 白山スキー 初心者～中級者向き 対象 小学1～6年生

日程 2月13日(金)タ～15日(日)夜 2泊3日(2泊7食)

定員 70名(最少催行人数15名)

行先 白山瀨女(せな)高原スキー場(石川県)

宿泊 金沢学院大学白山麓研修センター

費用 41,000円(内申込金8,000円)

B. リトルキッズスキー春 初心者～中級者向き 対象 小学1～2年生

日程 3月26日(木)朝～30日(月)朝4泊5日(4泊11食うち車中1泊)

定員 60名(最少催行人数25名)

行先 志賀高原横手山スキー場(長野県)

宿泊 木戸池温泉ホテル

費用 65,000円(内申込金10,000円)

C. 小学生スキー春 初心者～中級者向き 対象 小学3～6年生

日程 3月26日(木)朝～30日(月)朝4泊5日(4泊11食うち車中1泊)

定員 60名(最少催行人数25名)

行先 志賀高原横手山スキー場(長野県)

宿泊 木戸池温泉ホテル

費用 65,000円(内申込金10,000円)

D. 中高生スキー春 初心者～中級者向き 対象 中学1年～高校3年生

日程 3月24日(火)夜～30日(月)朝6泊7日(6泊10食、うち車中2泊)

定員 30名(最少催行人数15名)

行先 野沢温泉スキー場(長野県)

宿泊 野沢温泉ホテル

費用 69,000円(内申込金 10,000円) ※昼食費は含みません。

E. チャレンジスキー春 中～上級者向き 対象 小学4年～高校3年生  
YMCAワッペンテスト5取得または緩斜面でのパラレルターンができる方対象となります

日程 3月24日(火)夜～30日(月)朝6泊7日(6泊10食、うち車中2泊)

定員 30名(最少催行人数15名)

行先 野沢温泉スキー場(長野県)

宿泊 野沢温泉ホテル

費用 69,000円(内申込金10,000円) ※昼食費は含みません。

4. 春休み小豆島少年少女キャンプ参加者募集中!!

カヌー・ヨット・釣りなどのマリンスポーツと磯遊び、島内めぐりなど瀬戸内海の余島の楽しいキャンプです。

神戸YMCAの子ども達と一緒にキャンプを過ごします。

日程 2008年3月29日(日)～4月2日(木)4泊5日 14食

場所 神戸YMCA 余島キャンプ場(香川県小豆郡土庄町宇余島)

対象 小学2年生～高校3年生 男女20名

参加費 54,000円(内申込金10,000円)

会員外の方は別途シーズン会費2,000円が必要です。

5. チャリティーコンサート

収益金は、インドのハンセン病患者・家族支援と京都YMCA活動費に使われます。

日時 2009年1月24日(土) 開場 午後5時30分 開演 6時

場所 日本キリスト教団 洛陽教会 (丸太町寺町上る)

料金 2,500円

出演 陣内 大蔵

(シンガーソングライター・2007年春より日本キリスト教団東美教会伝導師に就任)

※チケットはYMCA受付にて販売致しております。

6. ボランティアセミナーのご案内

がん患者さんとそのご家族へ 第21回 苦しみ、悩み、不安を共有しませんか。

この会は患者さんとそのご家族が抱えている苦しみや悩みについて、患者さん同士、そのご家族同士が話し合い、がんばりたくて付き合うための情報交換の場です。

日時 2008年12月20日(土) 午後7時～9時

場所 京都YMCA(三条柳馬場)

参加費 お一人 300円(お茶代等)

お申込・お問合せは 三条本館 電話075-231-4388 まで

## 新メンバー紹介



嵯維巧樹君 (42才)

スポンサー 古川安雄君

化粧品やサプリメントの製造販売及び飲食店を経営しています。ワイズメンズの活動が異業種交流会では無く、子供をサポートするための活動をしているところに興味を持ち入会させて頂きました。よろしくお願ひいたします。

## 12月の予定

3日(水) 第一例会(通常例会) 19:00～21:00

グランドプリンスホテル京都

19日(金) クリスマスキャロリング

23日(火) 第二例会(クリスマス例会) 18:00～21:00

ウェスティン都ホテル京都

19日(金) 三役会 廣井会長宅

24日(水) 役員会 京都YMCA

## 役員会報告

### 審議事項

第一号議案 磯谷君見舞金 ¥10,000 承認

第二号議案 ワイズ読本購入 21冊分 ¥21,000 承認

第三号議案 東京サンライズクラブとのDBC並びに

ハワイウエストオアフクラブとの

IBC締結に向けて行動する。承認

第四号議案 12月第一例会ウエルクラブの会費 ¥4,000 承認

第五号議案 クリスマス例会の会費 承認

メン 無料

メネット¥5,000、コメット(大)¥5,000

コメット(小)¥2,000ビジター¥8,500

## 1月の予定

9日(金) 第一例会(新年例会) 19:00～終わるまで

21日(水) 第二例会(半期総会) 19:00～21:00

グランドプリンスホテル京都

23日(金) 三役会 廣井会長宅

28日(水) 役員会 京都YMCA



6日三村良行君 和美メネット

10日金丸太郎君 美貴メネット



2日利川彰男 君